資料３

子ども・子育てフォーラム及びワークショップの開催結果について

公立大学法人岩手県立大学と盛岡市の地域協働研究の一環で，地域福祉計画をはじめとする各種保健福祉計画の策定にあたり，市の福祉施策の現状や課題について市民や事業者の皆様と共有し，これからの福祉を考える場を設けることを目的として，次のとおりフォーラム及びワークショップを開催しました。

Ⅰ　子ども・子育てフォーラム「もりおかの子育てを考える」

１　日時　平成26年７月13日（日）　午後１時30分から午後４時30分

２　場所　大通会館　LiRiO

３　参加者　148名

４　内容

(1) あいさつ

保健福祉部長　熊谷　俊彦

岩手県立大学社会福祉学部教授　田中　尚　氏

(2) 基調講演①「子ども・子育て支援新制度について」

講師　内閣府子ども・子育て支援新制度施行準備室参事官補佐　西田　紫郎　氏

(3) 基調講演②「盛岡市における子ども・子育てを取り巻く環境について」

講師　保健福祉部子ども未来課長　石橋　浩幸

(4) パネルディスカッション「みんなで考えよう！もりおかの子育て」

コーディネーター　岩手県立大学社会福祉学部講師　櫻　幸恵　氏

パネリスト（五十音順）

・盛岡市子ども・子育て会議会長　相澤　徹　氏

・日経DUAL編集記者　小田　舞子　氏

・太田地区民生委員・児童委員協議会会長　山口　君子　氏

・特定非営利活動法人いわて子育てネット副理事長・事務局長　両川　いずみ　氏

コメンテーター

・内閣府子ども・子育て支援新制度施行準備室参事官補佐　西田　紫郎　氏

・保健福祉部長　熊谷　俊彦

５　パネルディスカッション発言要旨

・子どもの現状をよく見ていくことが必要。身近に相談できる窓口があることが重要。

・様々な制度があるが，子どもや保護者の立場から見て使いやすい制度になっているか，適切に運用されることが必要。

・病児保育や放課後児童クラブなど，偏在性を解消していく必要がある。
・困っている人はなかなか声を上げられない。そういう方への支援をどうやっていくか。
・子育て世帯だけでなく，社会全体で子育てに関わって欲しい。共働きで子育てをしている世帯にとって，イクジイ・イクバアはかけがえのない存在。
・子育てをしながら働くには，企業の理解が必要。長時間労働の解消，働き方をどのように整えていくかが重要。
・子育て中の人が働きにくい社会であり，盛岡市が「子育てしやすいまち」になれば，全国から人が集まるのではないか。
・少子高齢化が進む地域で，地域ぐるみで子どもを育てる取組みとして，民生委員・児童委員による子育てサロンを行っている。当初は行政の助成を受けていたが，助成金打ち切り後は地域の人材やさまざまな資源を活用して継続している。
・子育てサロンを通じて，いったん地域を離れても，地域に戻ってきて子育てしたいと思えるような地域作りに取り組んでいる。
・中心市街地につどいの広場を整備することで，まちの活性化につながっている。つどいの広場は親子が自由に，いつでも利用できるような居場所であり，子育てに関する不安や悩みを相談する窓口の役割も担っている。
・子どもが体を動かして遊ぶことで，成長の段階に応じて身につけなければならないことが備わっていく。昔は冬でも雪の中で遊んでいたが，今は難しくなっていて，室内で遊べる場所が必要。
・幼稚園や保育所に通う子どもだけでなく，在宅の子どもも平等に支援を受けられることが必要。
・子どもの最善の利益を実現するため，関係する方と手を取り合い，子どもがちゃんと育っていく環境をつくっていくことが必要。
・全ての人に支援を届けるには，皆の力を総動員して取り組む必要があり，一人ひとりで何ができるかを考え市にリクエストし，地域で子育てすることを考えていくことが必要。

6　参加者アンケートについて

(1) 回収通数　62通（回収率41.8%）

(2) アンケート記載事項（抜粋）

①フォーラムで印象に残ったこと

- 人と人をつなぐ，コーディネートする人がもっと必要
- 子どもの現状を見ようとして見る，相談機能，支援事業所など身近にあってこそ
- いろいろな制度があるが，それを知らないため利用できない
- 太田地区の地道な活動
- 身近に使える制度

- 相談する窓口を，相談しやすい立場で設けて欲しい
- 子ども最善の利益（主体は子どもにある）
- たくさんの方の支えがあって自分が育てられたということを改めて感じた
- 人材確保，資金
- 身近に相談できる場とていねいな対応
- 子どもが主体，地域の子育て力
- 子どもの今は未来の社会
- よりそい型の相談が必要
- 相談業務を色々ある事を知った。公より私の相談窓口
- 主役は子ども。全ての子どもや子育て家庭を対象
- 見えないところに目を向ける。人材育成。行政は地域におろした後，どのように関わっていくか
- 太田地域の子育てサロンについて同じ民生委員として参考になった。市の中心部にある地区に住んでいると，情報を知る手が難しい。子ども会を中心に活動している中からの支援に結びつくようになればと考えている

②地域における「子育て」「子どもの育ち」に関する問題や課題

- 子育てに不安を感じたときに話を聞いてもらえたり，相談できることが大事
- 職員が専門職員で安定して活動しているのか。
- 相談窓口身近にあること
- あまりにも少子化が進み成長の過程で段階的に身につけるべき社会性を育てることができない
- 本当に困っている人の声が届かない
- 地域での声かけ，あいさつなど
- 子どもたち同士の交流，ふれあいの場
- 安定的な資金の確保（継続性），声かけて仲間づくりによる支援
- 育児，子育てコーディネーターが必要ではないか
- 待機児童，家庭での保育のあり方について，少子化，核家族化，女性の社会進出，ワークライフバランス
- 地域住民の交流
- 親以外の大人との関わり
- 子育てに関する予算の増額
- 地域で子供は育つといわれるが，親が地域の行事等の参加が少ない
- 人と人とのつながりが切れていている
- 声を上げられない家庭への支援

- 相談の仕方がわからない若い親，イクジイ，イクバアの子育てへの高齢者の役割
- 様々な制度，支援をどれだけ理解して利用できるか，利用するために相談に乗ってくれる人，まちづくりの会のおかげで地域の子どもたちと接することが増えました。しかし残念ながら行事をこなすだけで気になりながら声をかけるだけしかできません。地域での子育てに理解が少ないのが現状です
- 高齢者は活動しているが子どもの声が聞こえない。ゲーム等に楽しむ時間を作っているのか，学校では地域で考えるように地域におろしてくる。その関わり方が非常に困難な状況に，行政はどう考えるか
- 地域の各世帯の情報を知るために，学校，幼稚園，保育園へ足を運び，地域で自分は何が出来るかを知ることから考えていく
- 制度はあっても理解している市民が少ないことはもったいないです。当事者にならないと興味が持てないのでしょうか

③「もりおかの子育て」「子どもの育ち」を支えていくために地域で求められている機能や役割

- 各地域で行政の手を借りて子育てサロンを行うべきだと思います。まず自分が立ち上がらないとフォーラムを何度繰り返し聞いても自分ではほど遠いと思います。
- 勉学に集中できる環境づくり
- 協働の体制づくり
- 人の中で人を育てる
- ふるさとに戻って子育てできる環境づくり。いつでも来られる環境づくり，身近な相談窓口
- 子育てに困ったときは，また，困らないときも話が事由に出来る場が必要。話すことで気持ちが楽になる。
- 過疎地域では，あまりにも子どもの数が少ないので，道で会っても逆にどこの誰だかわからず，声をかけられない。地域ぐるみの子育てをどのようにアピールしたらよいのか。
- お茶のみ広場を盛岡中心でなく，他の場所に何か所設けてほしい
- 相談しやすい環境，人と人とのつながり
- 町内会，老人クラブの協力が不可欠（子供育成会，中学校外生活部との協調）
- 親子が地域の行事に参加させてあげることが，人との支えもあるのではないか。
- 見守り活動
- 地域住民，世代を超えての交流が不可欠である

- 子どもの健やかな成長には愛情や安心感が必要です。たくさんの目で見守り，声をかけてあげられる仕組みがあるといいのではないでしょうか
- じいさん，ばあさんの力をかりて子育てはできると思いました
- 若い役員と先輩の役員ともっともっとうまくコミュニケーションをとっていったらいい地域になっていくと思います。
- 盛岡市の補助（資金面），知識，補助，人が必要
- みんなが自分から進んで集まる場所
- 近所（隣の家など）への声がけ
- 小学生になって子供達だけで留守番をしている世帯があります。理由の一つとして親が他の人と関わりになりたくないと思っている家庭があるみたいです。地域の中でもっと通いやすい場所などの配慮も必要かと思います
- 持続性，継続性，公民と連携した財源確保
- 世代間交流の回数を増やす（地区福祉推進会の仲立ちの大切さ）
- 結婚，出産，子育ての現状把握が必要と思う。子育ての親は，子どもがほしい，だがお金がかかる，だから出産を控えている，の声がほとんど。この点をどのように行政は考えていくのか
- 民生委員として幼稚園，保育園で手伝いが必要とすることがあるのなら，声をかけてもらいたい

Ⅱ　子ども・子育てワークショップ「もりおかの子育てを考える」

1　日時　平成26年７月19日（土）　午後１時から午後５時

2　場所　岩手県立大学アイーナキャンパス学習室１

3　参加者　14名

4　コーディネーター　岩手県立大学社会福祉学部講師　櫻　幸恵　氏

5　内容

(1) 櫻コーディネーターによる子育ての現状と子育て支援の取組み事例に関する講義

(2) グループに分かれての意見交換（３グループ）

(3) グループの話し合いの結果の共有

(4) まとめ

6　グループの話し合いの結果

・１グループ

課題（テーマ）	・子育て当事者の意見を吸い上げる
解決策	・身近にある町内会の組織を活用する。 ・子育てサロンなどで子育て中の親の率直な声を聞き，その声を町内

	会に届け，町内会から行政へつなげる ・声かけ（町内会行事，あいさつ）
具体策	・まとめ役として，子ども会の代表世話人や，主任民生児童委員の方にお願いする

・２グループ

課題（テーマ）	・情報共有（個人情報の壁）
何が原因か	・共働きの片親で多忙 ・転勤族で地域との交流が少ない ・マンション住まいなどの地域性 ・遊び場所が少ない ・行政の横のつながりの希薄（保健所，地域福祉課，子ども未来課）
解決策	・声かけ（町内会行事，あいさつ）
具体策	・保健師の新生児訪問に同伴し，顔合わせをする ・支援者として子育てに関する情報を周知する ・共働き，片親等忙しい世帯に情報を届ける ・どこで何を必要としているかを知る （例：遊び場が欲しい，母親のリフレッシュの場所がほしい，男性の参加がほしい，支援者が共有して協力し合う） ⇒活動開始

・３グループ

課題（テーマ）	・成人までの一連の支援 （支援していくサポートの人のつながりはどのようにしていくか）
何が原因か	・支援のつながりがない （育ちの段階，支援者同士の横のつながり）
解決策	・全体像の把握 ・子どもを中心とした各関係者の話し合いの場がない ・定期的にサポートする人の集まりをもつ場所づくり ・子どもが成人するまでの流れのある支援を考えていないから ・支援者の組織づくりをし，土台を骨太にする

	・支援が細分化している。全体を考える形がない ・連携 ・支援者と他機関をつないで子どもを幼→小→中→高とつないで見つめていく仕組みづくり ・専門的な機関への道案内も時に必要である ・横のつながりが必要で定期的に情報を交換する。円になるように ・支援者に必要な情報を伝えて問題解決への近道化を図る ・定期的に対話し信頼し合う事が大事，コミュニケーション ・支援者機能をもっと外に発信，アピールし,存在感を大きくすることで相談しやすさを作る ・支援者モチベーション ・サポートする人の悩みを解決するお助けマン的存在があると良い ・サポートする人のつながりが実際にあれば，それを知る方法 ・子育て支援サポートを地域の中で支えるために，ネットワークをもつ ・理解してあげるため，アンテナを強く，情報収集する気持ちが大切 ・支援者スキルアップ ・支援していく人，サポートしていく人のスキルアップ ・支援者のスキルをあげる研修を設けていく（例：一人親家庭の支援，発達障がいの専門知識，行政の相談機関 ・支援する人のサポートのために市や福祉関係の人を交えて勉強会を各地区で開催する ・依存，他力本願ではなく，責任ある子育てする心得を学ぶ ・関連する分野の人も含めた集まりの機会をもつ ・町内，地域での対応を真剣に語り合う ・各地区の支援者との交流研修会の充実 ・多様な事例の報告，情報交換 ・支援者の悩みを分かち合い，支えあう
まとめ	定例連絡会の設置

7　参加者の感想（抜粋）

・子どもの事を思う気持は同じであるという強い志が感じ取れました。

・気軽に意見交換できて良かった。日頃から，思っている事は皆さんも思っていた事に

うれしく思いました。次は，自分に何が出来るのか，何から取り組んで行ける一歩を考えることができた。

・参加者がとても真剣に話し合っていたこと。地域のために何かしたい！という意欲がとても強く，具体的に活動されている方も多かった。そして皆，だいたい同じことを課題としてとらえているようだった。（逆を言えば，同じ課題がずっと解決されていないということでもあるが）

・現在はまだ何もない状態なので，このような集まりをもっと早く持てれば良かった。

・自分の地区の中でどう生かせるのか？心配です。

・こどもサロンを来年からひらきたいと考えていたので参考になった。

・今日の時間が今後に生かされることを願っています

・子育て中の当事者が来にくい理由としては，やはり「子どもの面倒を見なければいけない」ということがあると思うので，逆を言えば「親子で参加してハッピーな時間」になるのであれば，イベントのノリで来れるのではないか。なるべく一緒に参加できて子どもが楽しめる仕掛けがあれば働いている女性の声なども集めやすいと思う。